

乳児期の全身浸出症状から皮膚症状が落ち着き喘息治療を続けた小児アトピーの経過 (12 歳 男児)

症例 ID : 001-12-NY7

記録日 : 2018 年 5 月 28 日

1. 診断・治療前経過

生後 3 か月頃に顔の湿疹が強くなり、その後は全身へ広がって浸出性となりました。上のきょうだいにもアトピーがあり、乳児期から松本医院を受診しました。幼稚園期まで皮膚症状が続きましたが、小学校低学年頃から浸出性の皮膚がかさぶたや乾燥を伴う状態へ変化しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児期に近医のステロイド外用薬を使用した記録はありません。喘息様症状に対して近医からステロイド外用薬が処方されましたが、継続使用はしませんでした。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	継続使用はしていません。
中止時期	処方後に使用を避けました。
来院前／後	皮膚症状に対する使用歴は不明です。喘息様症状の時期に処方歴があります。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 3 か月頃	発症・治療開始	顔から全身へ湿疹が広がり、薬浴と外用処置を開始しました。
乳幼児期	症状の波	一時的にきれいになっても掻破を繰り返し、浸出性症状が続きました。
幼稚園期	慢性経過	皮膚症状が残り、日常的な処置を続けました。
小学校低学年頃	皮膚の変化	浸出性症状が減り、かさぶたと乾燥を主体とする状態へ変化しました。
その後	喘息様症状	皮膚症状が落ち着く一方で、時折喘息様症状が出ました。
12 歳時	記録時点	黄砂や PM2.5 の時期に皮膚症状や喘息様症状が出ることがあり、治療を継続していました。

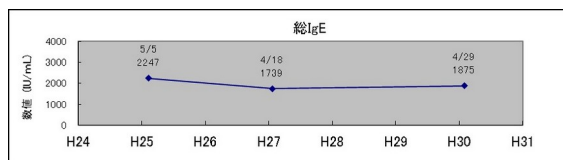
4. ピーク時期

ピークは、乳児期に顔から全身へ浸出性の湿疹が広がり、掻破を繰り返した時期です。

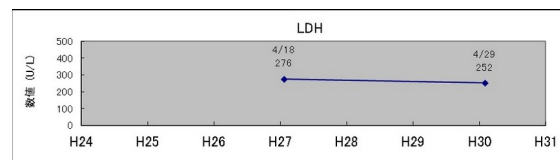
5. 困りごと

- ・乳児を抱いて毎日約 1 時間の薬浴を行う必要がありました。
- ・皮膚症状が長く続き、喘息様症状も加わりました。
- ・黄砂や PM2.5 の時期に症状が出ることがありました。

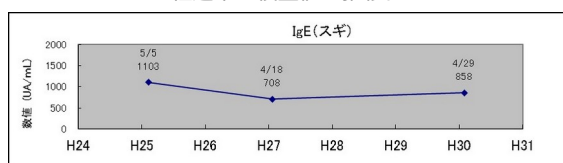
6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



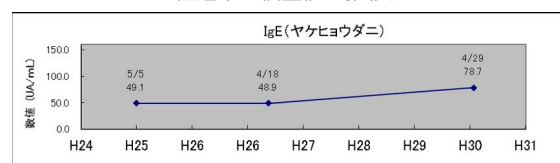
経過中の検査値の推移。



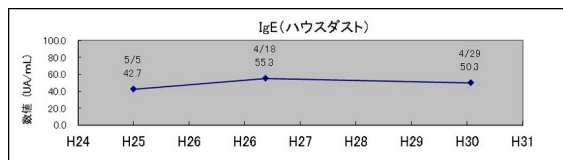
経過中の検査値の推移。



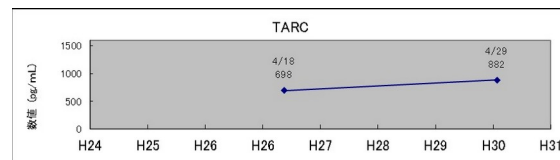
経過中の検査値の推移。



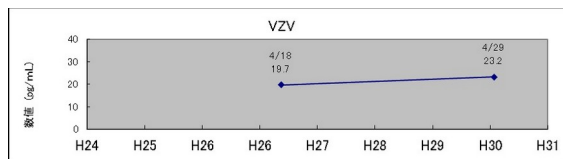
経過中の検査値の推移。



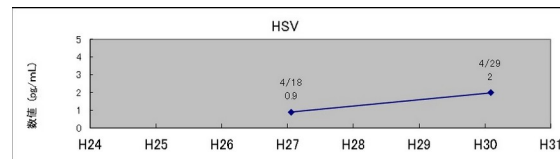
経過中の検査値の推移。



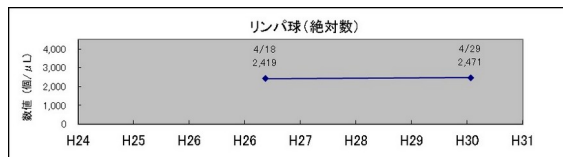
経過中の検査値の推移。



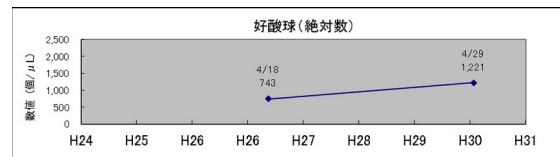
経過中の検査値の推移。



経過中の検査値の推移。



経過中の検査値の推移。



経過中の検査値の推移。

7. 経過のまとめ

小学校低学年頃から皮膚の浸出性症状は徐々に落ち着きました。

12歳時には季節や大気環境に伴う皮膚症状と喘息様症状が残っていましたが、通院経過の中で、皮膚症状や生活上の支障が軽減していく変化がみられた症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。